

時代と共に形を変えるラブホテル ～日本人にとってラブホテルとは

江端勇氣

要 旨

第一章 ビジネスホテルやシティホテルをラブホテルと区別するために本論文におけるラブホテルの定義を述べる。

第二章 戦前のラブホテルへの施設の認識というはりカップルや夫婦で利用するのではなく男性の遊び場であったと考えられる。それが戦後になるにつれ現在のラブホテルの基礎が出来ていったと考えている。

第三章 戦後までは共にポジティブであったが、女性の進出、娯楽の発達、ラブホテルの進化、ラブホテルでの殺人事件の発端によりラブホテルに対する意識はポジティブからネガティブに移行してしまう。

第四章 この章では大人と若者では意識が異なっているのではないかと考える。まず高度成長期時代に若者と呼ばれていた世代は現代の大人として世の中の固定概念を作る役割を担っている。ラブホテルに関する多くのネガティブな記事を読み成長したために、ラブホテルに対してネガティブな意識を抱いていると思われるためである。他方若者に関しては、以前はアダルトグッズなどでよりエロティックな空間にすることでホテルとの差別化を図ったラブホテルは、現在では女性でも入りやすく、アミューズメントとしても楽しめるようになったため、あまりネガティブなイメージを持っていないと思われるためである。さらに今までメディアに露出することが出来なかったラブホテル業界がメディアに露出をし始めたことも、こうした若者のイメージ形成に寄与していた。

第五章 この章では本論文の結論と問題点を整理し最後にこれからのラブホテル業界がどのように進化していくのか自分なりに述べたいと思う。